

パネルディスカッション



国立研究開発法人情報通信研究機構 ナショナルサイバートレーニングセンター主任研究員佐藤 公信氏をコーディネータとして「セキュリティと世界の在り方」というテーマでパネルディスカッションが行われた。パネリストは竹迫 良範氏 (SECCON 実行委員長)、若林 恵氏 (元WIRED 日本版編集長)、山口 功作氏 (駐日エストニア大使館 EAS 日本支局長) の3名の方々である。

現状の法制度ではサイバー犯罪に対してAIなど未知のものは裁けない。山口氏により、AIに法的な人格を与え第3のカテゴリを作ってはどうかとエストニアで議論していることが紹介された。

近代は、人がロボットになるべく仕事に配置されている社会であり、仕方なく人間を採用している面がある。その行きつく先は人間がAIにとって置き換えられる世界である。

人間が作りたい世界を実現するために一番の近道はAIを使うことであり人間はあくまで主体であるという発想が重要である。AIはどこまでいっても処理側であり、AIを使って新しいものを創造できイノベーションできる人間が、今後望まれていく人材像だと思う。

ナイトセッション総括

森井先生をコーディネータとして、ナイトセッションを総括するパネルディスカッションが開催され、各テーマの総括が行われた。



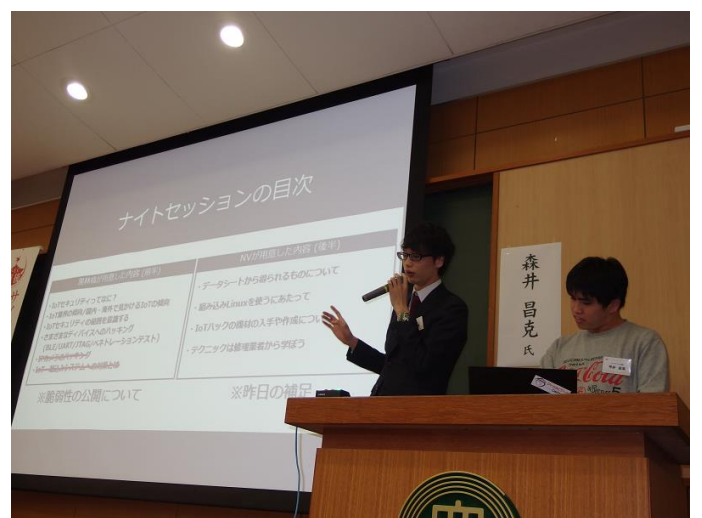
岩下氏（代理：森井先生）



楠氏



古川氏



村島氏、平井氏

【テーマ1 総括】

仮想通貨が国際的規制の方針になっており、仮想通貨の一部は詐欺行為になっている。日本で **Fintech** が盛り上がらないのは銀行が強いからという説明があった。その後ブロックチェーンと2つのセッション会場で合同してディスカッションが行われた。

【テーマ2 総括】

Bitcoin は日本でも 2013 年ごろ使われることが多くなった。ブロックチェーンは未熟な暗号アルゴリズムの利用や鍵管理など失敗を想定しない仕組みのため安全性に疑問がもたれている。安全対策基準も考えられているが、それでも不十分なのではと議論された。

【テーマ3 総括】

中小企業セキュリティ向上のためにセッションを開催した。中小企業のセキュリティ意識の現状、国や各機関が行う施策の検証、セキュリティ意識を高めるために何をすればいいか議論された。

【テーマ4 総括】

脆弱性の公開について気を付けていることについて紹介され、推測による脆弱性指摘の発表はリスクがあると述べられた。IoT 機器のハッキング技術はデータシートや修理業者などから学ぶことができ、コミュニティを作ることや教育プログラムでも人材育成できる。

最優秀学生研究賞表彰式

飯島 涼氏による「指向性スピーカを用いた音声認識装置への攻撃と評価」が最優秀学生研究賞、四国総合通信局長賞として表彰された。

